

第2章

杉並区の 景観特性



01

杉並区の景観の成り立ち

杉並区は武蔵野台地のうち東京区部西部にある山手台地の一部で、地形は全般的に平坦ですが、中央部を善福寺川が、南部を神田川が、北部を妙正寺川が、それぞれ西から東へと流れているため、それに沿って傾斜地や台地などの起伏があります。

室町時代には、区内に村落があったと考えられています。江戸時代から大正時代までは、野菜や雑穀の生産を中心とした農村地帯でした。また、区内を東西に貫く甲州街道や青梅街道、五日市街道は江戸時代からの主要な道路です。

明治22年(1889年)には、現在のJR中央線が甲武鉄道として開通し、その後、荻窪駅をはじめとする駅が開設され、住宅都市としての発展の礎となりました。明治44年(1911年)には、原蚕種製造所(後の蚕糸試験場)が設立され、その後も救世軍杉並療養所や中島飛行機東京工場の開設が続くなど、徐々に「むら」から「まち」へと変貌していきました。

大正期以降は私鉄各線の整備が進み、大正12年(1923年)の関東大震災後、都心から多くの被災者が郊外に移り住んできたことで、農村地帯であった杉並区でも急速に人口が増加しました。

そして、戦後の高度経済成長とともに、都心へ通勤する会社員のための住宅都市として発展してきました。昭和30年(1955年)では区内の3分の1が農地でしたが、昭和45年(1970年)には農地が1割まで減少し、宅地化の波は区内の景観を一変させました。

また、大正期から昭和期にかけて、区北西部で井荻土地区画整理事業*などの整備が広い範囲にわたって実施されました。その他、高円寺駅周辺では、戦災復興による区画整理が行われた地区もあり、整然としたまちなみが形成されています。一方で、区南部では、旧緑地地域(土地区画整理事業を施行すべき区域*)が面的に分布し、これらの地域では、区画整理が実施されないまま、道路基盤が未整備の状態宅地化が進みました。このようにまちが変化する中でも、公園や緑地、屋敷林、農地といったみどりの整備、保全に努力がなされてきました。

長い年月をかけて育まれたみどり豊かな住宅都市を継承し、魅力あるまちなみを創出していくためには、区の地形や自然の中で積み重ねられてきた歴史や文化が創り出した景観特性を、これからの景観づくりに活かしていくことが大切です。

景観は建物や施設、自然が持つあらゆる要素が織り交ざって生み出されるものです。区では、その要素を以下の4つに分類して示すこととします。



1 生活的要素

住宅地

令和5(2023)年度発行の「すぎなみのまちの動き～土地利用現況調査結果の分析～」では、区全体の面積に対し71.1%が宅地であり、そのうち79.1%が住宅用地です(P.152 参照)。特に低層住宅地*を中心としたまちなみが形成されています。低層住宅地*は、主に区東部を中心とした木造賃貸住宅等の共同住宅の多い比較的密度の高い住宅地と、区西部を中心とした戸建住宅の多いゆとりある住宅地の2つに大きく分けられます。

駅周辺等の商業地

駅周辺には生活に密着した商店街が息づいており、その地域が持つ歴史、文化、環境などの地域特性を生かした個性的な商店街が、にぎわいのある景観を作り出しています。



浜田山周辺の住宅地

2 自然的要素

水辺

区内には、神田川、善福寺川、妙正寺川の3河川のほか、玉川上水が流れています。各河川周辺にはみどりが広がり、心地よい潤いを与えてくれます。善福寺川上流には善福寺池があり、みどり豊かな潤いのある風景を形成しています。また、水辺に直接触れることのできる遅野井川親水施設が整備されています。河川に架かる橋梁も多く、散策や眺望点の機能を果たす施設として、水辺景観を形成する重要な要素の1つです。

みどり

区内には、古くからある樹木や屋敷林、農地など、まとまりのあるみどりが今も残されています。しかし、近年は所有者の高齢化や樹木の老朽化などにより、農地や屋敷林が減少しており、古くからある樹木の保全が難しい状況にあります。みどりは、グリーンインフラ*として気候変動等に対応する役割を果たすだけでなく、景観を形成するうえでも大切な要素です。



善福寺川

3 公共的要素

道路

狭あい道路拡幅整備、カラー舗装、無電柱化や段差の無い歩道、自転車通行帯の整備等を進めています。特に、無電柱化や街路樹・植栽帯等の活用は周囲の景観を大きく改善し、誰にとっても魅力的で居心地が良く、出かけたくなる歩行者空間を生み出します。

主要道路や生活道路以外にも、井草川遊歩道など、かつて河川や水路であった場所に整備された比較的に長い遊歩道があり、地域の回遊性を高めています。

鉄道

区内には、JR中央線、京王線、京王井の頭線、東京メトロ丸ノ内線、西武新宿線の5路線が敷かれています。この内、京王線と西武新宿線の一部区間については、連続立体交差事業*が進められるとともに、より安全で利便性の高い駅前空間の整備等を進めており、景観においても重要な要素となります。

公共施設

区内には、区民センターやスポーツ施設、図書館、学校などの建築物のほか、公園などの施設が多くあります。これらの施設は、設置目的に沿った役割を果たすだけでなく、地域の良好な景観の拠点としても大きな役割があります。



杉並芸術会館（座・高円寺）

4 文化的要素

歴史的文化

区には、古くから残る寺院や神社が点在しており、その建造物と敷地内に広がるみどりによって、古き良き時代の杉並を彷彿とさせる景観が形成されています。また、大田黒公園や角川庭園、令和6年(2024年)12月に区立公園として公開された荻外荘公園などには、歴史的建築物が残されています。こうした今に残る歴史ある施設は大切な景観要素です。

また、阿佐谷七夕まつり、東京高円寺阿波おどりは、その歴史とともに夏の風物詩となり、区内外から多くの人々が訪れる杉並区を代表するひとつの大切な景観要素となっています。

にぎわいの文化

区内には、音楽専用ホールを備えた杉並公会堂や舞台芸術の創造と発信、そして地域に根ざした文化活動の拠点である杉並芸術会館(座・高円寺)等、芸術や芸能に触れられる施設があります。

また、アニメ制作会社が区内に集積しているという地域特性を生かし、杉並アニメーションミュージアムにて、区内アニメ制作会社等と連携した展示やイベント等を行うことで、アニメの文化を区内外に発信しています。

こうしたにぎわいの文化は、まちの個性となり、地域を魅力的なものにしています。



東京高円寺阿波おどり

杉並百景

杉並百景に選定された景観を
各要素別に紹介します



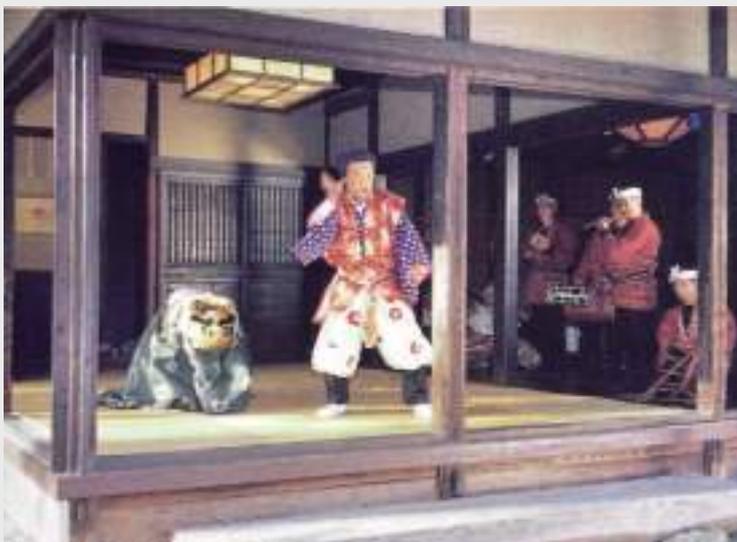
生活的要素 西荻の朝市



自然的要素 日大二高のいちょう並木



公共的要素 セシオン杉並



文化的要素 大宮前ばやし

杉並百景は、区制施行 60 周年を迎えるにあたり、区民に身近な杉並のまち・まちなみを見直してもらうことを目的に、平成 5 年（1993 年）3 月に発行しました。

杉並百景の選定にあたっては、「あなたの一景。このまちの一景。みんなで百景」をキャッチフレーズに、一人一人が大切にしている「わたしの一景」を広く募集しました。

応募のあった「杉並 781 景」から候補地 200 景を絞り込み、その中から区民の投票をもとに「杉並百景」が選ばれました。

杉並区まちづくり基本方針に基づき、区民の通勤、買い物などの日常の行動圏域として駅を中心に設定した7地域にはそれぞれの個性があり、そのまちの特性を生かした景観づくりが進んでいます。



| 地域名 | 住所 |
|-----------|---|
| 1 井草地域 | 上井草一丁目～四丁目、井草一丁目～五丁目、下井草一丁目～五丁目 |
| 2 西荻地域 | 上荻二丁目～四丁目、西荻北一丁目～五丁目、善福寺一丁目～四丁目、桃井三丁目～四丁目、今川三丁目～四丁目 松庵二丁目～三丁目、宮前五丁目、西荻南一丁目～四丁目 |
| 3 荻窪地域 | 今川一丁目～二丁目、桃井一丁目～二丁目、清水一丁目～三丁目、本天沼一丁目～三丁目、天沼一丁目～三丁目、上荻一丁目 南荻窪一丁目～四丁目、宮前一丁目～四丁目、荻窪一丁目～五丁目、阿佐谷南三丁目、成田西二丁目、高井戸東四丁目 |
| 4 阿佐谷地域 | 下井草一丁目～二丁目、阿佐谷北一丁目～六丁目、本天沼一丁目、阿佐谷南一丁目～三丁目、成田東一丁目～五丁目 成田西一丁目～三丁目、浜田山四丁目、大宮二丁目、松ノ木一丁目～三丁目、梅里二丁目 |
| 5 高円寺地域 | 高円寺北一丁目～四丁目、阿佐谷南一丁目～二丁目、高円寺南一丁目～五丁目、和田一丁目～三丁目 堀ノ内二丁目～三丁目、松ノ木二丁目～三丁目、梅里一丁目～二丁目 |
| 6 高井戸地域 | 松庵一丁目、宮前一丁目・四丁目～五丁目、高井戸西一丁目～三丁目、久我山一丁目～五丁目、上高井戸一丁目～三丁目 高井戸東一丁目～三丁目、下高井戸一丁目・三丁目～五丁目、浜田山一丁目～三丁目 |
| 7 方南・和泉地域 | 永福一丁目～四丁目、浜田山一丁目・三丁目、下高井戸一丁目～三丁目、和泉一丁目～四丁目、方南丁目～二丁目 堀ノ内一丁目～二丁目、大宮一丁目、松ノ木一丁目、永福四丁目 |

上井草一丁目～四丁目

井草一丁目～五丁目

下井草一丁目～五丁目



井

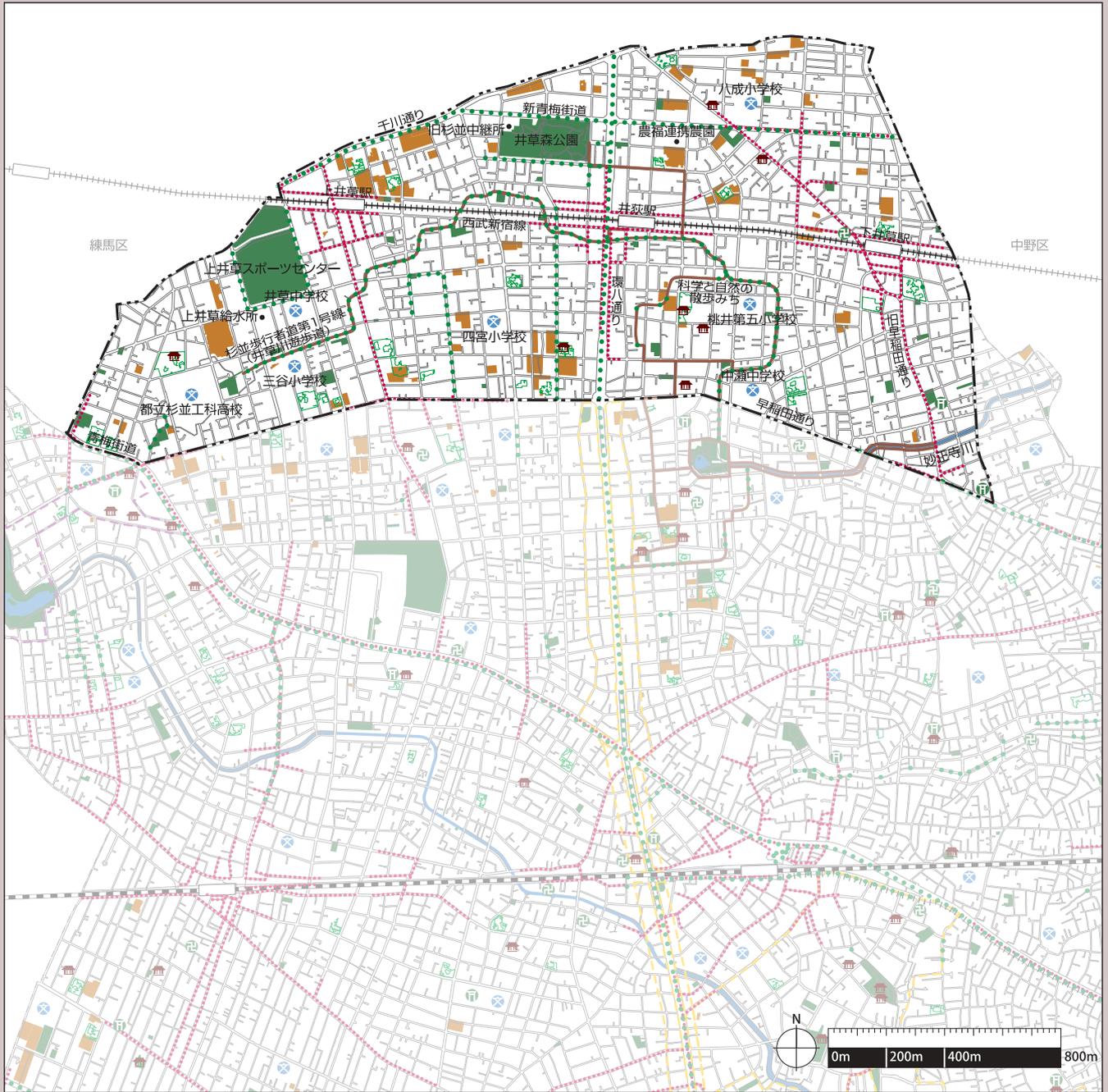
草

イグサ



農福連携農園 すぎのこ農園

1 井草地域



凡例

| | | | |
|--|---------|--|----------|
| | 公園・運動場等 | | 街路樹 |
| | 河川、玉川上水 | | 遊歩道・散歩みち |
| | 農地 | | 商店街 |
| | 屋敷林 | | 寺社・社寺林 |
| | 地区計画 | | 文化財 |
| | 風致地区 | | 学校施設 |

歴史

この地域は、江戸時代、農地や雑木林が散在する農村であり、明治時代に井荻村となりました。

昭和2年(1927年)には西武鉄道村山線が開通し、下井草駅、井荻駅及び上井草駅が設置されました。都心に通う人々が住むようになり、戦後の高度経済成長期を経て、現在の姿に至っています。



千川通り 井草5丁目(昭和23年(1948年))

用途地域*

下井草駅、井荻駅及び上井草駅周辺は近隣商業地域であり、西武新宿線沿線は中高層住居専用地域です。また、環八通り沿道は、準住居地域と近隣商業地域となっています。

西武新宿線沿線及び幹線道路沿道以外は、多くが第一種低層住居専用地域で占められています。

景観要素

生活的要素

地域の多くは、比較的大きな戸建住宅や共同住宅などがまばらに分布する住宅地です。

また、下井草駅、井荻駅及び上井草駅周辺は、にぎわいのある商店街が形成されています。

自然的要素

農地や樹林地、公園などのオープンスペース*が多くあります。令和3年(2021年)4月には、農福連携事業*を実施する農園として、井草三丁目に農福連携農園を開設しました。地域の東端には妙正寺川が流れています。また、かつては地域の中央に井草川が流れていましたが、現在は暗きよ*化され、その大部分が井草川遊歩道となっています。さらに井草川遊歩道や妙正寺川などをつなぐ「科学と自然の散歩みち*」が整備されています。

公共的要素

道路としては、南北に環八通り、東西に北から新青梅街道、早稲田通りが通っています。また、鉄道としては、中央を東西に西武新宿線が走り、東から下井草駅、井荻駅、上井草駅があります。

また、公共施設としては、上井草スポーツセンターや上井草給水所があるほか、区立施設マネジメント計画により、旧杉並中継所は災害時の防災拠点として活用するとともに、平時における活用方法についても検討を進めています。

文化的要素

毎年1月に1年の無病息災を願い、地域の絆を深める「井草どんと焼き」が行われています。上井草駅前には「機動戦士ガンダム」モニュメントが設置されるなど、アニメを生かした商店街振興が行われています。



善福寺公園の上の池



上荻二丁目～四丁目

西荻北一丁目～五丁目

善福寺一丁目～四丁目

桃井三丁目～四丁目

今川三丁目～四丁目

松庵二丁目～三丁目

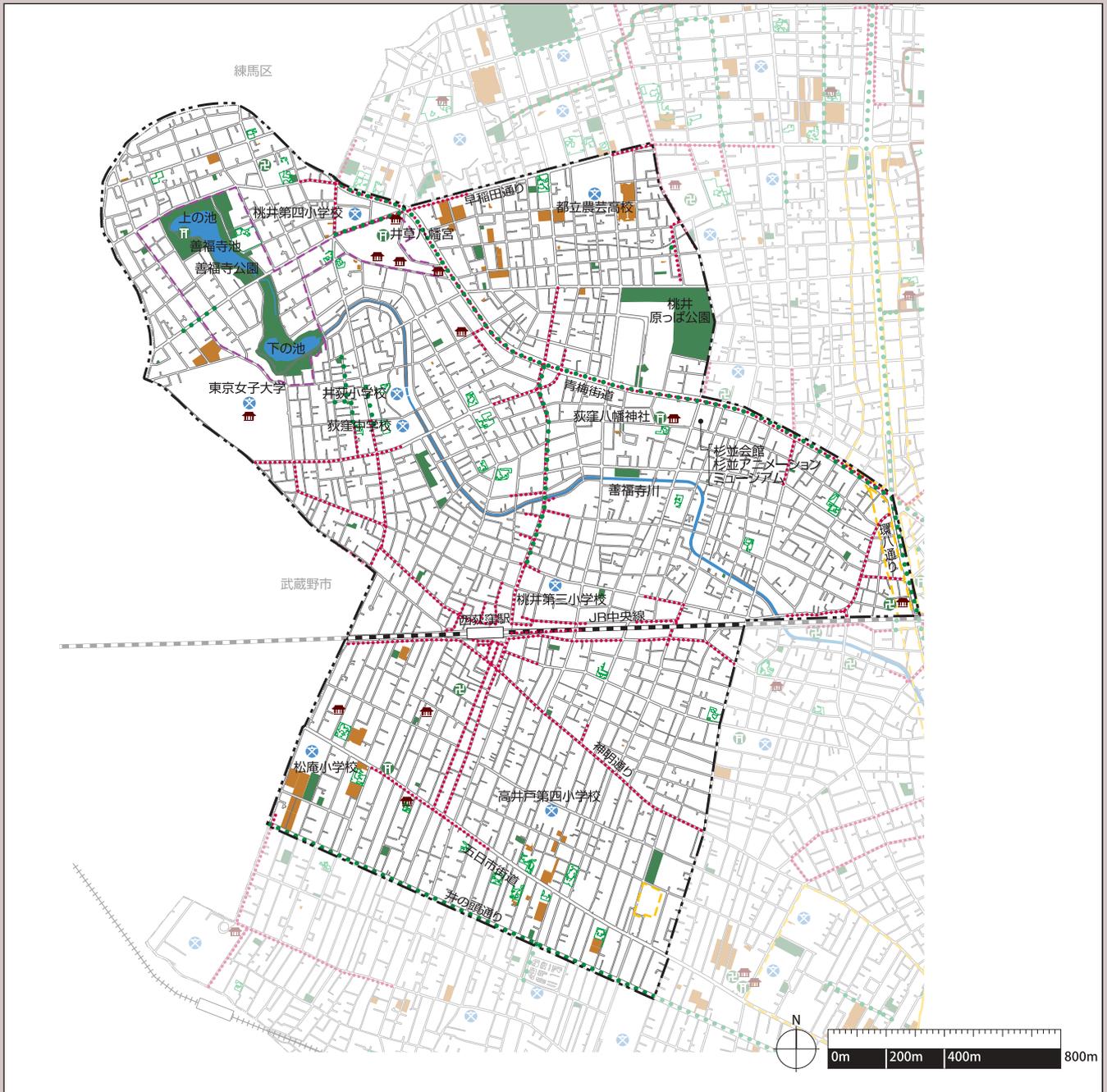
宮前五丁目

西荻南一丁目～四丁目

ニシオギ

西荻

2 西荻地域



凡例

| | | | |
|--|---------|--|----------|
| | 公園・運動場等 | | 街路樹 |
| | 河川、玉川上水 | | 遊歩道・散歩みち |
| | 農地 | | 商店街 |
| | 屋敷林 | | 寺社・社寺林 |
| | 地区計画 | | 文化財 |
| | 風致地区 | | 学校施設 |

歴史

この地域は、江戸時代、農地や雑木林が散在し、青梅街道沿いに民家が並んでいました。また、新田開発で開けた大宮前新田、松庵村、中高井戸村は、五日市街道沿いに縦長の短冊形地割をしており、街道に沿って民家が点在していました。明治22年(1889年)に「市制・町村制」が施行され、井荻村と高井戸村に統合された後、大正15年(1926年)にそれぞれが町になりました。

明治22年(1889年)には甲武鉄道(現在のJR中央線)が開通し、大正11年(1922年)に新設された西荻窪駅への道路を設置するため、井荻第一耕地整理*組合が設立され、耕地整理*が行われました。



開設された西荻窪駅の北口(大正11年(1922年))

用途地域*

西荻窪駅周辺及び青梅街道沿道などは、商業地域及び近隣商業地域です。また、桃井二丁目、三丁目、四丁目の一部は、準工業地域です。その他の区域は、第一種低層住居専用地域などです。

善福寺公園周辺の善福寺二・三丁目の一部は、善福寺風致地区*となっています。

景観要素

生活的要素

比較的敷地面積の大きな戸建住宅が多く分布する住宅地です。地域南側の五日市街道沿道は、屋敷林を持つ比較的大きな宅地や農地が残っており、落ち着いた感のある住宅地が形成されています。一方で、中小規模の戸建住宅を中心とした密度の高い土地利用がなされているところもあります。また、西荻窪駅周辺は、商業施設や飲食店などが集まり、にぎわいのあるまちなみが形成されています。

自然的要素

地域北側には、東西に善福寺川が流れており、北西部には大きな池のある善福寺公園があります。一方で、南側はまとまりのあるオープンスペース*や公園・緑地が少なくなっています。

公共的要素

道路としては、東西に北から早稲田通り、青梅街道、五日市街道、井の頭通りが通っています。

また、鉄道としては、中央を東西にJR中央線が走り、西荻窪駅があります。

令和2年(2020年)4月には、東京都市計画道路補助線街路第132号線のうち青梅街道から善福寺川を越えた区間について、東京都から都市計画事業の認可を受け、事業を開始しています。

文化的要素

井草八幡宮や東京女子大学といった歴史的な建物が残されています。井草八幡宮では、5年に一度、流鏝馬神事が行われます。

地域の商店街には、雑貨店や古書店等が立ち並び、文化的な街となっています。公共施設としては、日本のアニメ文化を学び、体験できる場の杉並アニメーションミュージアムがあります。

その他、桃井原っぱ公園では、区内最大級のイベントであるすぎなみフェスタが開催され、区内外から多くの人々が来場し、にぎわいを創出しています。

今川一丁目～二丁目

桃井一丁目～二丁目

清水一丁目～三丁目

本天沼一丁目～三丁目

天沼一丁目～三丁目

上荻一丁目

南荻窪一丁目～四丁目

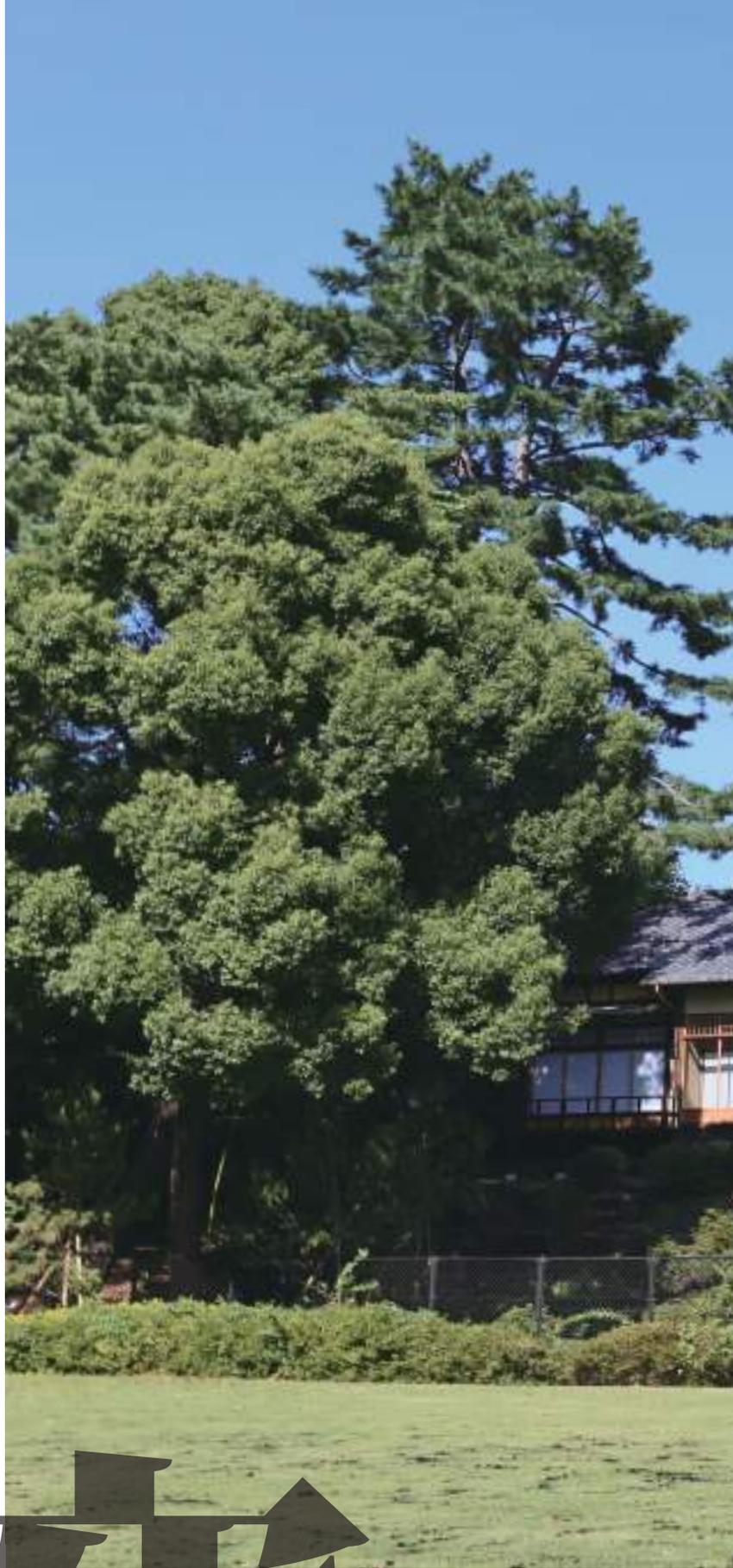
宮前一丁目～四丁目

荻窪一丁目～五丁目

阿佐谷南三丁目

成田西二丁目

高井戸東四丁目



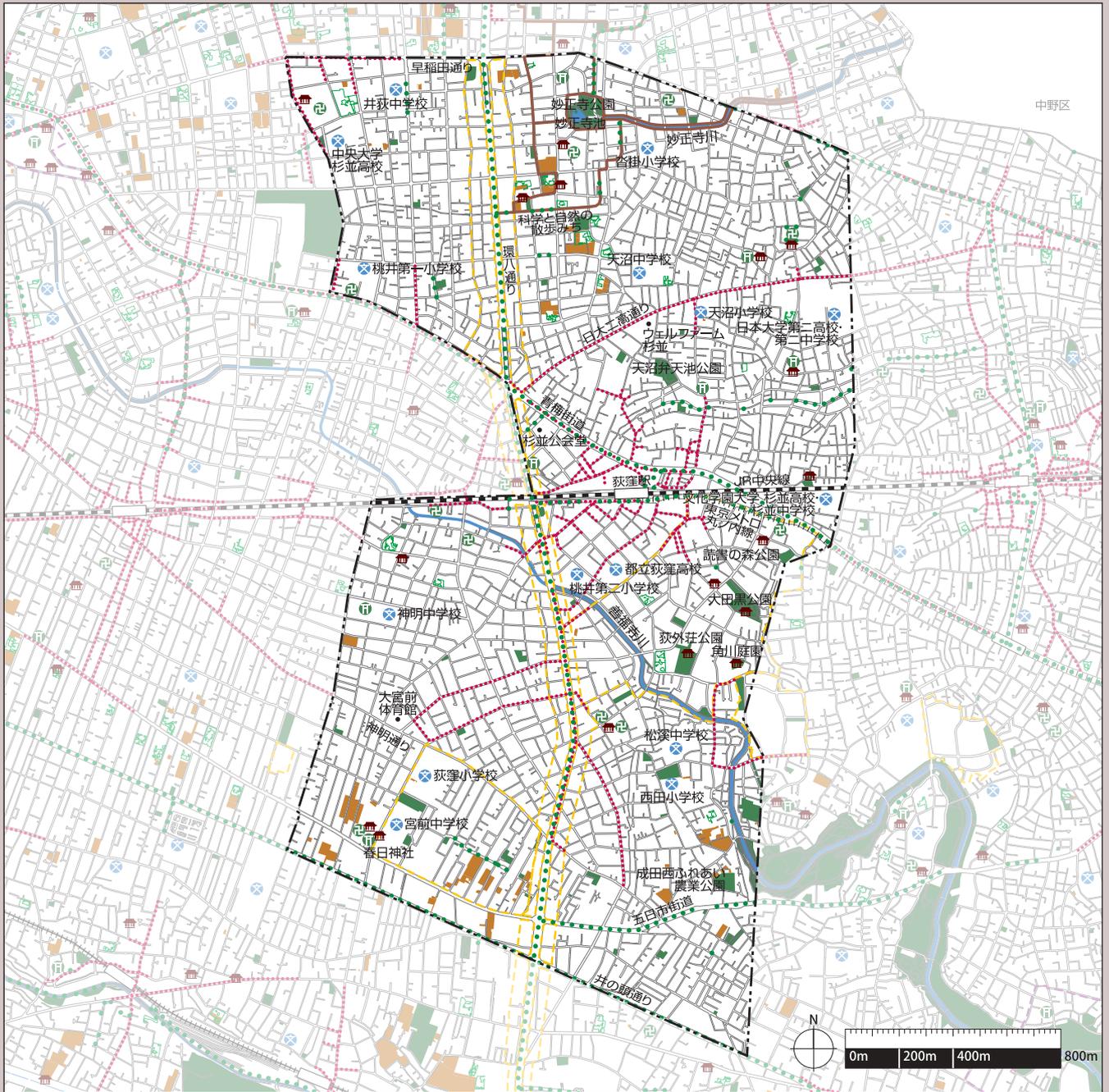
荻窪

オギクボ



荻外荘公園

3 荻窪地域



| 凡例 | |
|----|----------|
| | 公園・運動場等 |
| | 河川、玉川上水 |
| | 農地 |
| | 屋敷林 |
| | 地区計画 |
| | 風致地区 |
| | 街路樹 |
| | 遊歩道・散歩みち |
| | 商店街 |
| | 寺社・社寺林 |
| | 文化財 |
| | 学校施設 |

歴史

この地域は、室町時代にはある程度の田畑、農家がありました。江戸時代に入ると新田開発も行われ、青梅街道や五日市街道沿いに農地や雑木林が広がり、農家が点在する農村地帯でした。江戸時代、この地域の北側は天沼村や下井草村、南側は上荻窪村や下荻窪村であり、ほとんどの住民が農業に従事し、野菜などを栽培していました。明治22年(1889年)、上井草村、下井草村、上荻窪村、下荻窪村の4村が合併し、井荻村に高円寺村、馬橋村、阿佐ヶ谷村、天沼村、田端村、成宗村の6村が合併し、杉並村になりました。明治22年(1889年)に甲武鉄道(現在のJR中央線)が開通し、明治24年(1891年)に荻窪駅が開設されるとともに宅地化が始まり、特に大正12年(1923年)の関東大震災後の東京市民の郊外転入により発展しました。

戦後、昭和30年代に入ると、善福寺川流域の水田が埋め立てられて団地や住宅地となり、一部が緑地として残りました。

用途地域*

青梅街道、日大二高通り及び環八通り沿道などは、商業地域及び近隣商業地域です。その他は、第一種低層住居専用地域などです。

また、環八通り沿道は、沿道地区計画*が導入されるなど、道路交通騒音の防止や商業・業務機能の集積が進んでいるとともに、天沼三丁目は、木造住宅が密集しているため東京都建築安全条例による「新たな防火規制区域*」に指定されています。

景観要素

生活的要素

北側には寺や屋敷林などがあり、比較的ゆとりあるまちが形成されています。天沼周辺は、小規模な木造住宅が密集しています。南側には大田黒公園周辺地区地区計画*に基づく建築物等の規制により、良好な住環境の維持とみどり豊かな落ち着いたあるまちなみが形成されています。

荻窪駅は区内最大の交通結節点*で、乗降客数も区内最大です。駅周辺には商業施設や飲食店などが集まり、にぎわいのあるまちなみが形成されています。

自然的要素

北端を東西に妙正寺川が流れており、南側には東西に善福寺川が流れています。また、風情ある草花や池により、住宅地でも自然と触れ合うことができる天沼弁天池公園があります。南側には、農の風景の保全と都市景観の向上を図ることを目的とした、成田西ふれあい農業公園があります。

公共的要素

道路としては、南北に環八通り、東西に北から早稲田通り、青梅街道、五日市街道、井の頭通りが通っています。鉄道としては、中央を東西にJR中央線が走り、荻窪駅があります。公共施設としては、平成30年(2018年)3月にウェルファーム杉並が建てられました。また、令和2年(2020年)9月に、杉並区立中央図書館がリニューアルされ、隣接した読書の森公園とより一体となり、本と自然を同時に楽しめる施設となっています。



荻窪駅北口付近(昭和19年(1944年))

文化的要素

古くから著名な文化人が多く住んでいたことにより、別荘地等の歴史的建築物が多い地域です。音楽家・大田黒元雄氏の屋敷跡である大田黒公園、政治家・近衛文麿の住んだ屋敷である荻外荘等が点在しています。また、活気に満ちた文化芸術の活動拠点となる杉並公会堂があります。

大田黒公園では、毎年秋に、紅葉のライトアップが行われ、多くの人が集まるイベントとなっています。加えて、「荻窪音楽祭」が行われ、駅前広場や教会などでクラシック音楽を気軽に楽しむことができます。



中杉通り

アサガヤ



下井草一丁目～二丁目

阿佐谷北一丁目～六丁目

本天沼一丁目

阿佐谷南一丁目～三丁目

成田東一丁目～五丁目

成田西一丁目～三丁目

浜田山四丁目

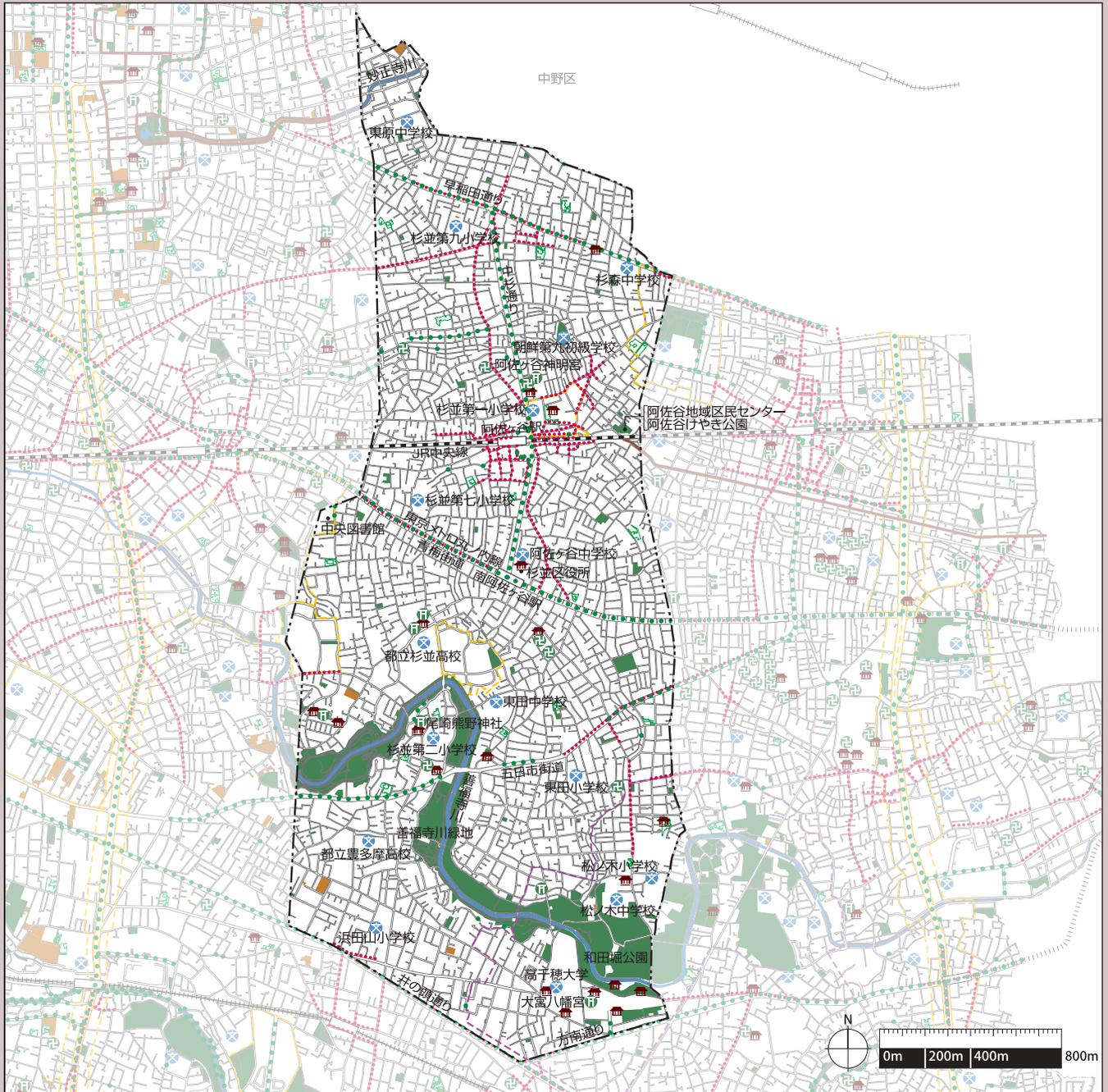
大宮二丁目

松ノ木一丁目～三丁目

梅里二丁目

阿佐谷

4 阿佐谷地域



| 凡例 | |
|----|----------|
| | 公園・運動場等 |
| | 河川、玉川上水 |
| | 農地 |
| | 屋敷林 |
| | 地区計画 |
| | 風致地区 |
| | 街路樹 |
| | 遊歩道・散歩みち |
| | 商店街 |
| | 寺社・社寺林 |
| | 文化財 |
| | 学校施設 |

歴史

この地域は、江戸時代、北側は阿佐ヶ谷村、南側は成宗村や田端村であり、明治22年(1889年)に高円寺村、馬橋村、阿佐ヶ谷村、天沼村、田端村、成宗村の6村が合併し、杉並村となりました。当時は青梅街道沿いに農地や雑木林に囲まれて農家が点在する農村地帯でした。

明治22年(1889年)に甲武鉄道(現在のJR中央線)が開通し、大正11年(1922年)に阿佐ヶ谷駅が開設されました。また、大正10年(1921年)に青梅街道に堀之内軌道(戦後の都電杉並線)が開通しました。

大正12年(1923年)に起きた関東大震災後、住宅地として急速に発展し、大正13年(1924年)に杉並町になりました。

用途地域*

早稲田通り、青梅街道、五日市街道及び中杉通り沿道などは、商業地域*及び近隣商業地域*です。その他の区域は、第一種低層住居専用地域*などです。

地域の北東側は、木造住宅が密集しているため、東京都建築安全条例による「新たな防火規制区域*」に指定されています。また、地域の南側は、土地区画整理事業を施行すべき区域*及び和田堀風致地区*となっています。

景観要素

生活的要素

地域の北側は、比較的小規模な住宅が密集しています。青梅街道の南側は、共同住宅や大規模・小規模の住宅が混在しています。浜田山周辺は、比較的ゆとりある土地利用が行われています。

阿佐ヶ谷駅、南阿佐ヶ谷駅周辺は、商業施設や飲食店のほか、区役所をはじめ多くの公共公益施設が集まり、にぎわいのあるまちなみが形成されています。

自然的要素

地域の北端を東西に妙正寺川が流れています。また、中杉通りのケヤキ並木は、多くの区民に愛着をもたれ、区のシンボルとなっています。

南側には善福寺川が流れており、大きく蛇行する川に沿って善福寺川緑地と和田堀公園が広がっています。

公共的要素

道路としては、東西に早稲田通り、青梅街道、五日市街道、井の頭通りが通っています。また、南北には無電柱化が完了した中杉通りが通っており、電柱や電線のないすっきりとした美しい景観に生まれ変わっています。

鉄道としては、中央を東西にJR中央線が走り、阿佐ヶ谷駅があります。また、杉並区役所の隣には東京メトロ丸ノ内線南阿佐ヶ谷駅があります。

公共施設としては、令和4年(2022年)3月に、阿佐谷地域区民センターが移転し、隣接する阿佐ヶ谷けやき公園とともにリニューアルされ、屋上公園も新たにできたことから、より美しく、人々を楽しませる集いの場となっています。

また、阿佐ヶ谷駅北東地区において、防災性・安全性の向上と駅前にふさわしい都市機能の強化、阿佐谷の歴史を伝える景観づくり、みどりと住環境の調和したまちづくりを推進するため、平成31年(2019年)3月に「阿佐ヶ谷駅北東地区まちづくり計画*」を策定、令和2年(2020年)3月には「東京都市計画阿佐ヶ谷駅北東地区地区計画*」の都市計画決定を行いました。これに伴い、杉並第一小学校は、周辺地域とも調和した、子どもたちが輝ける学校として新たに整備されることとなりました。

文化的要素

地域の人たちの手で大切に続けられている「阿佐谷七夕まつり」や「阿佐谷ジャズストリート」などのイベントが開催されています。また、12月上旬から1月下旬には、駅南口広場に大きくそびえたつアケボノスギにイルミネーションが灯され、季節の風物詩となっています。

高円寺北一丁目～四丁目

阿佐谷南一丁目～二丁目

高円寺南一丁目～五丁目

和田一丁目～三丁目

堀ノ内二丁目～三丁目

松ノ木二丁目～三丁目

梅里一丁目～二丁目



高円寺

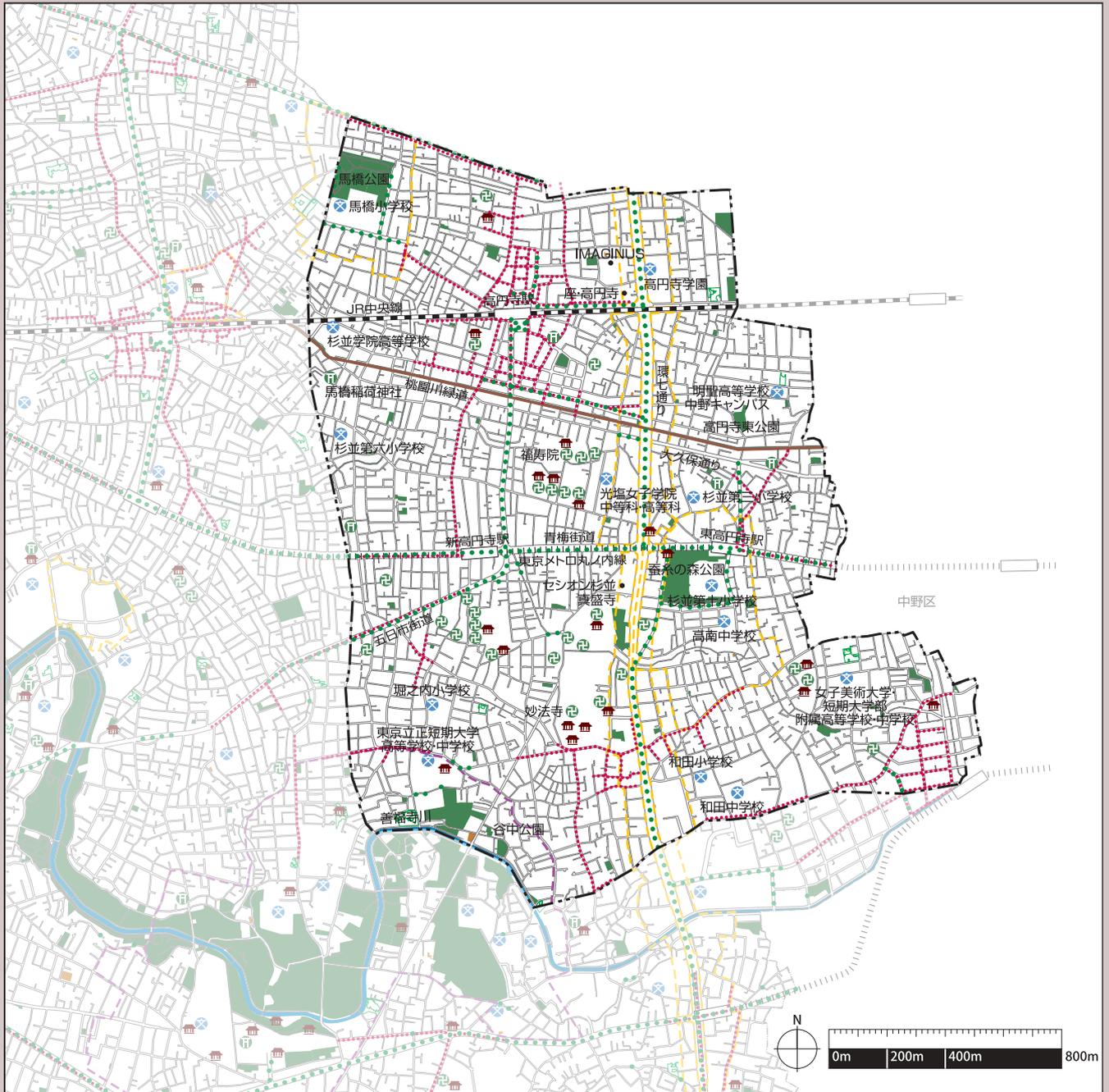


高円寺北三丁目 セントラルロード

杉

コウエンジ

5 高円寺地域



凡例

| | | | |
|--|---------|--|----------|
| | 公園・運動場等 | | 街路樹 |
| | 河川、玉川上水 | | 遊歩道・散歩みち |
| | 農地 | | 商店街 |
| | 屋敷林 | | 寺社・社寺林 |
| | 地区計画 | | 文化財 |
| | 風致地区 | | 学校施設 |

歴史

この地域は、江戸時代、北側は高円寺村や馬橋村、南側は和田村や堀ノ内村でした。明治22年(1889年)に北側の2村と阿佐ヶ谷村、天沼村、田端村、成宗村が合併し、杉並村となり、南側の2村と和泉村、永福寺村が合併し、和田堀内村となりました。当時は青梅街道沿いに農家が点在する農村地帯でした。大正12年(1923年)に起きた関東大震災後、住宅地として急速に発展し、杉並村は大正13年(1924年)に杉並町に、和田堀内村は大正15年(1926年)に和田堀町になりました。

明治40年(1907年)から43年(1910年)にかけて東京市中から福寿院など4寺院が移転するなど、寺院が集積する寺町が形成されました。

明治22年(1889年)に甲武鉄道(現在のJR中央線)が開通し、中野に隣接する高円寺から宅地化が進み、大正11年(1922年)に高円寺駅が開設されました。また、大正10年(1921年)に青梅街道に堀之内軌道(戦後の都電杉並線)が開通しました。

用途地域*

高円寺駅周辺、青梅街道及び環七通り沿道などは、商業地域及び近隣商業地域です。その他の区域は、第一種低層住居専用地域などです。

地域の北側は、木造住宅が密集しているため東京都建築安全条例による「新たな防火規制区域*」に指定されています。また、環七通り沿道は、沿道地区計画*が指定されるなど、道路交通騒音の防止と商業・業務機能の集積が進んでいます。地域の南側は、和田堀風致地区*となっています。

景観要素

生活的要素

比較的小規模な木造住宅が密集している住宅地です。特に、駅周辺は狭小敷地や賃貸の共同住宅が多く集まっています。

高円寺駅、東高円寺駅及び新高円寺駅周辺は、商業施設や飲食店などが集まり、にぎわいのあるまちなみが形成されています。

自然的要素

蚕糸の森公園や善福寺川流域の和田堀公園などがあり、みどりのオープンスペース*が点在しています。

地域の南端を東西に善福寺川が流れています。

公共的要素

道路としては、南北に環七通り、東西に北から早稲田通り、青梅街道が通っています。

令和4年(2022年)7月には、東京都市計画道路補助線街路第221号線について、東京都から都市計画事業の認可を受け、事業を開始しています。

鉄道としては、北側を東西にJR中央線が走り高円寺駅が、中央を東西に東京メトロ丸ノ内線が走り、東から東高円寺駅、新高円寺駅があります。

公共施設としては、令和5年(2023年)8月に施設改修工事を経てリニューアルオープンしたセシオン杉並があります。セシオン杉並には、ホール、展示室等が整備されており、区の文化教育活動拠点として利用されています。また、区民の各種届出や手続きができる高円寺区民事務所が併設されています。

令和5年(2023年)10月には、旧杉並第四小学校の校舎を改修した「未来をつくる杉並サイエンスラボ IMAGINUS」がオープンし、次世代型科学教育の新たな拠点となっています。

文化的要素

古着屋やライブハウスなどが集積しており、若者や来街者が多く集まるまちとなっている一方、高円寺駅南側の寺町をはじめ、妙法寺などの寺院が集積しています。

また、春の「高円寺びっくり大道芸」、夏の「東京高円寺阿波おどり」、秋の「高円寺フェス」、冬の「高円寺演芸まつり」と一年を通じて個性豊かなイベントが開催されています。また、杉並芸術会館(座・高円寺)は、活気に満ちた文化芸術の活動拠点となっています。



区立柏の宮公園の稲刈り

タカイド



松庵一丁目

宮前一丁目・四丁目～五丁目

高井戸西一丁目～三丁目

久我山一丁目～五丁目

上高井戸一丁目～三丁目

高井戸東一丁目～三丁目

下高井戸一丁目・三丁目～五丁目

浜田山一丁目～三丁目

高井戸

6 高井戸地域



| 凡例 | | | |
|----|---------|--|----------|
| | 公園・運動場等 | | 街路樹 |
| | 河川、玉川上水 | | 遊歩道・散歩みち |
| | 農地 | | 商店街 |
| | 屋敷林 | | 寺社・社寺林 |
| | 地区計画 | | 文化財 |
| | 風致地区 | | 学校施設 |

歴史

この地域は、江戸時代、大宮前新田、久我山村、上高井戸村、下高井戸村であり、甲州街道に上高井戸宿、下高井戸宿の宿場町がありました。明治22年（1889年）に大宮前新田、松庵村、久我山村、中高井戸村、上高井戸村、下高井戸村の6村が合併し、高井戸村となりました。当時は農家が点在する農村地帯でした。

大正2年（1913年）に甲州街道沿いに京王電気軌道（現在の京王線）が、昭和8年（1933年）に帝都電鉄（現在の京王井の頭線）が開通しました。

高井戸村は、大正15年（1926年）に高井戸町になりました。



京王井の頭線 高井戸駅から浜田山駅を望む
(昭和30年(1955年)2月)

用途地域

浜田山駅、高井戸駅、富士見ヶ丘駅、久我山駅及び八幡山駅周辺、甲州街道や環八通り沿道などは、近隣商業地域です。その他の区域は、第一種低層住居専用地域などです。

また、久我山一丁目と久我山二・三丁目の一部では、玉川上水・放射5号線周辺地区地区計画*が都市計画決定されています。

景観要素

生活的要素

豊かな屋敷林を持つ比較的敷地規模の大きな戸建住宅を中心とした住宅地がある一方、中小規模の戸建住宅や共同住宅が混在する比較的密度の高い住宅地も形成されています。

浜田山駅、高井戸駅、富士見ヶ丘駅、久我山駅及び八幡山駅周辺は、飲食店などが集まり、それぞれにぎわいのあるまちなみが形成されています。

自然的要素

中央を東西に神田川が、南側を東西に国史跡玉川上水が流れています。玉川上水の上流部は現在もその形を留めており、下流部は暗きよ*化され、主に公園として利用されています。また、柏の宮公園や塚山公園、高井戸公園など、みどりのオープンスペース*が豊富にあります。

公共的要素

道路としては、南北に環八通り、東西に北から井の頭通り、人見街道、放射5号線、首都高速4号線・中央自動車道、甲州街道が通っています。

鉄道としては、中央を東西に京王井の頭線が走り、東から浜田山駅、高井戸駅、富士見ヶ丘駅、久我山駅が、南側を東西に京王線が走り、八幡山駅があります。

公共施設としては、杉並清掃工場の煙突が、杉並のランドマークとも言える景観となっています。

また、令和5年（2023年）8月に、富士見丘小学校が改築されました。新校舎の隣には、富士見丘多目的広場が開設され、小学校や少年団体等による貸切使用のほか、一般開放も行っています。なお、富士見丘中学校については、令和8年（2026年）の開校をめざして新校舎の建築工事を行っています。

放射第5号線の久我山区間については、国の史跡である玉川上水の保全や周辺住環境に配慮した幹線道路として整備されています。

文化的要素

浴風会の本館は、「東京都選定歴史的建造物」に指定されており、高井戸地域のシンボルのひとつとなっています。その他、塚山公園には縄文時代中期の遺跡があります。

永福一丁目～四丁目
浜田山一丁目・三丁目
下高井戸一丁目～三丁目
和泉一丁目～四丁目
方南一丁目～二丁目
堀ノ内一丁目～二丁目
大宮一丁目
松ノ木一丁目
永福四丁目



方南・ホウナン



方南銀座商店街

伊豆

イズミ

7 方南・和泉地域



凡例

| | | | |
|--|---------|--|----------|
| | 公園・運動場等 | | 街路樹 |
| | 河川、玉川上水 | | 遊歩道・散歩みち |
| | 農地 | | 商店街 |
| | 屋敷林 | | 寺社・社寺林 |
| | 地区計画 | | 文化財 |
| | 風致地区 | | 学校施設 |

歴史

この地域は、江戸時代、和田村、堀ノ内村、和泉村、永福寺村、下高井戸村でした。明治22年(1889年)に和田村、堀ノ内村、和泉村、永福寺村の4村が合併し、和田堀内村となりました。下高井戸村は、明治22年(1889年)に大宮前新田、松庵村、久我山村、中高井戸村、上高井戸村と合併し、高井戸村となりました。当時は農地や雑木林に囲まれて農家が点在する農村地帯でした。

大正2年(1913年)に甲州街道沿いに京王電気軌道(現在の京王線)が、昭和8年(1933年)に帝都電鉄(現在の京王井の頭線)が開通しました。

大正15年(1926年)に和田堀内村は和田堀町に、高井戸村は高井戸町になりました。

用途地域*

永福町駅及び西永福駅周辺、甲州街道や環七通り沿道などは、商業地域及び近隣商業地域です。その他の区域は、第一種低層住居専用地域などです。

また、環七通り沿道は、沿道地区計画*が導入されるなど、道路交通騒音の防止と商業・業務機能の集積が図られています。

景観要素

生活的要素

土地区画整理*が実施された地区がある一方、戸建住宅や木造アパートが密集している地区もあります。

また、方南一丁目地区は東京都の不燃化特区*に指定されており、公園や広場といった空地がほかの区域よりも少ないため、災害時に避難する場所の確保に取り組んでいます。

永福町駅、西永福駅及び方南町駅周辺は、にぎわいのあるまちなみが形成されています。

自然的要素

北側を東西に善福寺川が、中央を東西に神田川が流れています。

和田堀公園や下高井戸おおぞら公園、寺院などみどり豊かなオープンスペース*が多く点在しています。

また、善福寺川の親水護岸*と一体となった済美公園があります。

公共的要素

道路としては、南北に環七通り、東西に北から方南通り、甲州街道、南東から北西にかけて井の頭通りが通っています。

甲州街道などの幹線道路沿道には、共同住宅や事業所ビルなどが連なっています。

永福町駅北口商店街の区道第2101-1号路線は、無電柱化整備などにより、安全で快適な歩行空間が確保されています。

鉄道としては、井の頭通りに沿って京王井の頭線が走り東から永福町駅、西永福駅があるとともに、地域の東端には東京メトロ丸ノ内線方南町駅があります。

また、方南一丁目地区においては、「方南一丁目地区防災まちづくり計画*」を令和6年(2024年)7月に策定し、建物の不燃化等の防災まちづくりを推進しています。

文化的要素

方南銀座商店街では、毎年8月に「HONAN エイサー&ミュージックフェス」が開催され、小さな子どもから小・中学生、大人まで地域が一体となって楽しんでいます。

また、杉並に関する歴史と郷土資料の収集・保存、調査・研究と展示・公開を行っている杉並区立郷土博物館があり、歴史と文化に触れることができます。